



Lohas Design Award/2007

プレスリリース

2007年6月5日
有限責任中間法人ロハスクラブ

第2回ロハスデザイン大賞2007 ヒト・モノ・コト3部門大賞決定のご案内

有限責任中間法人ロハスクラブ（東京都中央区、代表理事：小黒一三）は、6月5日（世界環境デー）に、2007年度の第2回ロハスデザイン大賞／ヒト・モノ・コト3部門大賞を下記の通り発表いたしました。

第2回ロハスデザイン大賞は、一般個人審査員（登録数約10,000名）に対する公募によるエントリー候補に、ロハスクラブ理事メンバーの推薦によるエントリー候補を加えた349点から、最終審査候補としてロハスクラブ評議会が選定した86点を対象に一般投票を行いました。投票は、去る5月12日（土）～20日（日）に新宿御苑にて開催した「第2回ロハスデザイン大賞2007・新宿御苑展」における来場者投票（64,260票）、及び、ロハスクラブ一般個人審査員によるインターネット投票（37,308票）によって行われ、合算した総票数から、各部門上位3点、合計9点を大賞として認定するものです。

記

1：第2回ロハスデザイン大賞2007／3部門大賞受賞

「ヒト部門大賞」

和田 毅（福岡ソフトバンクホークス・プロ野球選手）	6,744 票
アル・ゴア（元米国副大統領）	6,573 票
谷川真理（マラソンランナー／流通経済大学客員教授）	3,656 票

「モノ部門大賞」

国内産十六種雑穀米（ベストアメニティ）	2,583 票
SANYO eneloop（三洋電機）	1,530 票
ユーグレナピュア（ユーグレナ）	1,487 票

「コト部門大賞」

ミスト農法（オーツコーポレーション）	3,002 票
ポカリスエットの新しいエコボトル（大塚製薬）	2,383 票
新・環境共生型マンション（シーズクリエイティブ）	2,240 票

2：応募／審査概要

応募エントリー総数：349 点

最終審査候補数：86 点

公募期間：2006年7月20日～2007年3月20日

最終投票期間：2007年4月19日～5月31日

※第2回ロハスデザイン大賞2007・新宿御苑展

開催期間：2007年5月12日～20日

開催場所：東京・新宿御苑

投票数	：第2回ロハスデザイン大賞2007・新宿御苑展／来場者投票総数	64,260 票
	ロハスクラブ・ホームページ／一般個人審査員投票総数	37,308 票
	合計	101,568 票

※投票は、1名につき各部門3票、合計9票までの投票により実施いたしました。新宿御苑展においては来場者に対して1名9票（各部門3票）の投票券を配布し、最終審査候補86点の展示に対する現地投票を募りました。

Lohas Design Award/2007

第2回ロハスデザイン大賞 2007 大賞受賞プロフィール

[ヒト部門大賞]



和田毅 (福岡ソフトバンクホークス/プロ野球選手)

投球数、1球ごとにワクチンを寄付

福岡ソフトバンクホークス投手。投球数1球ごとに10本、チームが試合に勝利した場合は1球ごとに20本のワクチンを途上国の子供たちに寄付することを自らに課し、2005年のシーズンオフから「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」(JCV)を通じて支援活動を開始。昨年は5万4810本を寄贈し、野球選手の社会貢献活動を表彰する「ゴールデンスピリット賞」を受賞。また自己最多タイの14勝を挙げた。



アル・ゴア (元米国副大統領)

地球温暖化の真実を世界に知らせる

1993年、アメリカ第45代副大統領に就任。8年間その職務を果たした。学生時代から環境問題に関心が高く、環境関連に関する政策立案などに活躍。2000年の大統領選では、ジョージ・W・ブッシュ氏に僅差で敗れた。政界引退後は、地球温暖化の現実を知らせる講演を世界中で行っている。その活動の軌跡を描いたドキュメンタリー映画『不都合な真実』は大きな反響を呼んだ。今年7月7日には温暖化防止を訴える大規模ライブ『Live Earth』を、世界7大陸で同日開催する。



谷川真理 (マラソンランナー/流通経済大学客員教授)

地雷のない平和な世界を願って

1998年、地雷除去作業中に右手・右足を失ったクリス・ムーンさんの伴走を務めたのがきっかけとなり、「地雷被害に遭っている人々が世界にいることを知ってほしい」と2000年から地雷廃絶のチャリティマラソン大会を開催。地道な活動が実を結び、毎年参加者は増え続けている。集まった寄付金は自身の手で「難民を助ける会」へ寄贈。今なお一年を通して2本のフルマラソンと、30本の市民マラソンに出場。走る楽しさを伝えている。

Lohas Design Award/2007

[モノ部門大賞]



国内産十六種雑穀米 (ベストアメニティ)

毎日のお米に大切な栄養素を

日本の「食の安全」を守るという志を掲げ、日本の食糧自給率を現状の40%から50%まで引き上げようと、全国1500の農家と提携して雑穀の栽培を推進しているベストアメニティ。日本古来の主食であった雑穀の栄養価を多くの人に知ってもらいたい。その思いが詰まったのが、この十六種雑穀米。純国内産雑穀100%でビタミン、ミネラル、食物繊維が豊富に含まれ、お米に混ぜて炊くだけで不足しがちな栄養素を補うことができる。

SANYO eneloop (三洋電機)



約1000回繰り返し使える充電式乾電池

充電式で約1000回「繰り返し使える」、暮らしを変える電池。充電コストは1本当たり約4円。寿命がきたらリサイクルに回され、ダストフリー。エコロジーとエコノミーを両立させた新しい乾電池。さらに電池の自己放電をセーブするために、超格子合金技術を結集。「買ってすぐ使える充電式電池」としても高い評価を得て、日経地球環境技術賞、Good Design Awardなどさまざまな技術賞、デザイン賞を受賞した。

ユーグレナピュア (ユーグレナ)

地球と人に同時にやさしいサプリメント

ユーグレナは、原始の地球で誕生した葉緑体微生物。どの植物よりも高い光合成能力を有し、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を好んで利用する。つまり、ユーグレナが増えれば増えるほど二酸化炭素を削減できる、地球の持続可能性のためにやさしい微生物なのだ。また、人体に必要な栄養素を全て持っているため、摂取時に体にやさしく栄養素を吸収できる。世界で初めて東京大学・大阪府立大学とユーグレナ社の研究活動により、石垣島で培養されるようになった。

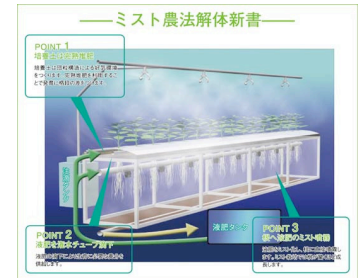


[コト部門大賞]

ミスト農法 (オーツコーポレーション)

農薬を使わない期待の農法

土壌の活力を生かしながら植物の生長を活性化し、農薬を使用せずに安心安全の野菜を提供する新しい農法。それがミスト農法である。このシステムは、ハウス内の高設棚上に、栽培床として約6cmの培土を敷き、植物の苗を定植。根の部分に液肥をミスト噴霧する。ミストの粒子を細かくすることで、拡散性を高め、効率よく根に栄養と酸素を与えることができる仕組みだ。農薬を一切使用せずに安全、高栄養価、鮮度を長持ちさせ、1年間を通しての野菜生産が可能である。さらに、この農法は-20℃を下回る寒冷地など過酷な条件下においても、野菜の生産ができる。40%を下回る日本の食料自給率向上と、農業復興に貢献できる画期的農法だ。



ポカリスエットの新しいエコボトル (大塚製薬)

-9gからはじめるエコ生活

27gから18gへ。ポカリスエット500mlペットボトル容器は、厚さを薄くすることで、これまでの容器より約30%の軽量化に成功した。国内で製造される500mlペットボトルの容器としては最軽量である。また、年間約3億本と消費量の多いポカリスエット500mlペットボトルでの軽量化は、エネルギー量で原油換算すると年間約4000klの削減となる。CO2削減量としては年間約8300tのCO2削減となり、約1500世帯分の年間CO2排出量に相当する。より快適で便利なデザインを追求しながら、自然とエコな生活を実現していく。それがポカリスエットの新しいエコボトルである。カーボンニュートラルな生活はここからはじまる。



新・環境共生型マンション (シーズクリエイト)

心に、体に、地球にやさしい住まい

現代の住宅において、ひとつのテーマになっている「環境と健康」。シーズクリエイトはそのテーマにいち早く取り組み、「心に、体に、地球にやさしい住まい」をテーマとした環境共生型の新しいマンションを推し進めている。従来より採り入れてきたオール電化や屋上緑化、太陽光発電に加え、調湿効果や保温効果に優れた心にやすらぎを与える天然無垢材を床やドアに使っている。また、結露を抑え、ペットやタバコの臭いにも効果を発揮する「呼吸する壁」、珪藻土を壁面に採用。「環境」と「健康」に配慮した、マンションの新しいかたちだ。

